文化の白子

発行　令和８年３月３１日
編集・発行　白子町文化協会

＜主な内容＞

・南日当獅子舞・・・・・巻頭
・ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ芸能部門・・・・２
・ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ展示部門・・・・３
・ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ特別公演・・・・４
・町内文化財めぐり・・・・４
・サークル活動報告・・・・５
・研修視察に参加して・・・６
・編集後記・・・・・・・・６

町指定文化財（民族芸能）昭和四十四年四月六日指定

南日当獅子舞（南日當獅子舞保存会）
「令和6年度房総の郷土芸能」出演

令和七年一月、長生村文化会館にて、「令和六年度房総の郷土芸能」が開催され、白子町代表として南日當獅子舞保存会の皆さんが出演しました。

これは、地域の皆さんの文化財に対する理解と認識を深め、将来への保存・継承活動の推進と、地域文化の活性化に寄与することを目的として行われました。

当日は、保存会の数ある演目の中から「亀と舞う」が演じられました。はじめに、調子のよいお囃子が会場に響き渡り、それに誘われるように、獅子（亀）が登場します。しばらくの間、獅子（亀）が舞っていると、そこへおどけ者が登場し、獅子（亀）をからかい始め、次第に、おどけ者と獅子（亀）とが一緒に舞うという演目です。

獅子（亀）とおどけ者が、お囃子に合わせて舞う姿が、ほほえましく、絶妙な掛け合いは、熟練の技のすばらしさを感じさせました。

南日當獅子舞保存会の演舞は、ふるさとしらこ祭等で、ご覧いただけたことと思います。

参考資料

・白子町の文化財　白子町教育委員会
平成八年三月発行

芸能部門

第３６回白子町生涯学習フェスティバル

作品展示：令和８年３月５日（木）～8日（日）

展示団体：俳句・写真・天文・染色・文化財・図凧
俳画・絵手紙・自然を守る会・歩く会等文化
協会所属のサークル部員、生涯学習教室生
の作品展示

芸能発表：令和８年３月８日（日）

発表団体：太極拳・コーラス・琴・フォークダンス・
フラダンス・オカリナ・太鼓・社交ダンス等

撮影協力：白写会

鷲獅子舞保存会

白子ダンスサークル

太極拳竹友会

コールヴィント

太鼓衆　楽

お琴サークル　つむぎ

オカリナサークル

トヨコ カーホナ オレ

あざみの会

白子フォークダンスサークル

展示部門

俳画クラブ

地域おこし協力隊

白子町文化散歩クラブ

白子町の文化財を守る会

しらこ俳句会

九十九里浜の自然を守る会

白子絵手紙の会

染色サークル

白　写　会

白子凧風保存会

白子天文サークル

白子町歩こう会

茶道サークル

洋裁クラブ

特別公演会

第一部「お坊さんの雅楽」
顕立雅楽会

顕立雅楽会

☆顕立雅楽会は、顕本法華宗関東地区僧員の有志が集まり、お寺での法要やイベント等で雅楽の演奏をしています。当日は、十一名の厳粛な演奏に心が洗われました。

第二部「居合演武」
秋葉広行・酒井裕子・太田和晴彦

☆刀を鞘に収めた状態から、敵の攻撃に対し瞬時に抜き打ち、一閃で敵を制する技を型として演武してくださいました。息をのむ技に、会場全体が飲み込まれました。

居合演武

第三部「ブレイキン」
大原エレメンツ

☆オリンピック競技となり日本選手大活躍のダンス、BREAKING（ブレイキン）！外房のブレイキンチームと言えば「大原エレメンツ」！
　皆さんよくご存じの頭でくるくる回る技も披露してくださいました。

大原エレメンツ

撮影協力：白写会

町内文化財めぐりを開催
文化協会会長　大多和秀一

玄徳寺　増田住職の説明

町内には古くから伝わる伝統行事や、神社・仏閣などが多くあり、これらは町の歴史や文化を理解する上で、とても貴重なものです。県や町では特に貴重なものを文化財として指定し、現在四十か所の保存活動がされています。

　日頃から町の文化活動の推進を担う文化協会は、約三七〇名の会員が所属し、それぞれの活動に励んでいますが、今回改めて町の文化財をめぐり、未来へつなぐ文化活動のあり方を考えることを目的として、八か所の文化財を訪れました。

　令和七年十月九日、北風が強く吹く中でしたが、二十八名の参加がありました。

　白子神社では宮田宮司、玄徳寺では増田住職、他の見学地では、文化財を守る会の皆さんに解説していただき、初めて知ることも多く、大変有意義な研修となりました。

　「温故知新（故きを温ねて新しきを知る）」、これは町づくりの礎となるものだと思います。次回は会員だけでなく、広く町民の方々に案内をしたいと考えています。

　是非、ご参加ください。

白子神社　宮田宮司の説明

サークル活動報告

あざみの会

育野　建男

　早いもので、あざみの会も今年で十八年目に入りました。

　年が経つとともに、メンバーは入れ替わりますが、かわらず活動を続けています。

　すてきな仲間と大きな声で歌うことで、ストレス発散になり、毎日が元気で楽しく生活ができているような気がします。

　私たちが歌う歌は、古い歌・新しい歌の中から、メンバーみんなで選びます。昨年は、「もしもピアノが弾けたなら」、「すばる」を選び、練習に励みました。今年は、どんな歌を歌うのか皆さんも楽しみにしていてください。

　それから、私たちも、発表の場をいただきました。南白亀ふれあいセンターで開催された「南白亀地区笑顔がいっぱい、いきいきサロン」に、二年続けて招かれて出演しました。

　観客の皆さんから、たくさんの拍手をいただき、楽しい思い出ができました。

　ここのところ、会員が少なくなり、寂しい思いをしていましたが、昨年から新しい仲間が一人、二人と増えてきています。メンバーが高齢化してきていますが、一生懸命歌うことで、新しい仲間が増えると信じて頑張っていきたいと思います。

　仲間が増えることが何よりの喜びです。皆さん、見学に来てください！

（活動日時）第二月曜日
　午前九時半～
（場所）南白亀ふれあいセンター
（会費）月千円
（連絡先）生涯学習課

俳画クラブ

神戸　曜子

　私たちは、俳画の基礎技能習得のためと一か月に一作品を作ることを目標に頑張っています。

　青少年センターの会議室で、講師の長山邦子先生のご指導のもと、会員相互の親睦を深めながら、作品作りに励んでいます。

　俳画は、自然、風物、静物を筆で描く省略の絵です。題材は、自然、静物、果実、野菜・・・、何でもあります！

　俳画は、省略の絵なので、余白を大切にしながら、作品づくりをすると、素朴で味わい深い作品ができあがります。

　苦労して仕上げた作品は、額に入れて、自宅の玄関に飾って楽しんでいます。

　長山先生は、一人一人の個性を生かして指導してくださるので、集中して、おおらかな気持ちで作品を仕上げることができます。

　そして、今年度は、新しいことにチャレンジしてみました。

　「ＮＰＯ法人さくら」に来ている子どもたちに俳画を教えました。はじめは、うまく教えられるか不安でしたが、一生懸命に取り組む子どもたちを丁寧に教えると、子どもたちは、とても喜んでくれました。私たちも、充実した時間を過ごすことができました。俳画に出会えたことは、私の宝物です。

　興味のある方は、是非、見学にいらしてください。

（活動日時）第二・四木曜日
　午後一時半～
（場所）青少年センター会議室
（会費）月二千円
（連絡先）生涯学習課

研修視察に参加して

鎌倉大仏と長谷寺・鶴岡八幡宮

研修委員長　猿田　勇

鎌倉大仏

晩秋の十一月二十一日、文化協会加盟の文化・芸能の各サークルの代表者三十一名が生涯学習バスにて、視察地の鎌倉市長谷に向かいました。

最初の目的地「鎌倉大仏殿高徳院」は浄土宗の寺院で、国宝の「銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）」を本尊とする鎌倉を代表する観光名所です。重さ約一二一トン、高さ約一一・三ｍの「露坐の大仏」として知られ、一二五二年から当時の姿を現代に伝える貴重な文化財です。大仏内部の「胎内拝観」が可能で、その巨大さに圧倒されました。

次の目的地は、大仏殿の近くにある「長谷寺」です。奈良時代（七三六年）に開創されたと伝えられる鎌倉を代表する歴史ある浄土宗系の単立寺院です。「長谷観音」の名で親しまれ、高さ九・一八ｍの巨大な木造「十一面観世音菩薩立像」が本尊です。一年を通じて花々が楽しめる「花の寺」としても知られ、特に梅雨時のアジサイや、見晴台から由比ヶ浜を見渡す絶景が有名ですが、今回は、きらびやかな十一面観世音菩薩とイロハカエデと銀杏の紅葉、更に山茶花やザルギクなどの花々が見事でした。

長谷寺の紅葉

その後、江ノ電で鎌倉駅前のお食事処に向かい、「極み義経膳」を堪能し、小町通りを散策しつつ、鶴岡八幡宮へ向かいました。神殿へ上がる石段の横の大銀杏は、鶴岡八幡宮のシンボルでしたが、二〇一〇年三月に強風で倒伏してしまいました。残った根から伸びた後継木が樹高八ｍを超えるまでに成長し、見事な黄葉を見せていてシンボルの復活に安堵した思いでした。十五時、鎌倉を後にし、帰途につきました。

これからも多くの皆様に感動をお届けできる研修視察を企画したいと思っております。

鶴岡八幡宮

編集後記

生涯学習フェスティバルの特別公演で、居合の演武を拝見した。歴史と伝統のあるものであり貴重な機会であった。

居合の師範の演武は、意外にも気負いのない静かなほどの流麗な所作であった。

淀みなく流れる動作の中に緩急ある技は、見ていて心地よい。ある時は、演者からの気合と迫力が、見る者の背筋を立たしめるほどの緊張感をもって伝わってきた。

達人の明鏡止水（めいきょうしすい）の姿とはこれなのだと感じ、伝統文化の本物の技と姿にしばらく感動の余韻が残った。

編集委員長　片岡　幹男

編集者
編集委員長　片岡　幹男
編集委員　育野　建男
〃　長谷川太江子
事務局　長島　正明